

「星空かわら版」発行報告

江越航*

概要

当館では来館者向けに天文学や星空の話題を解説した「星空かわら版」というパンフレットを発行している。これは来館者に対し時機にかなった星空の話題を解説したパンフレットを配布し、市民の天文学・宇宙に関する教育普及の一助となることを目的に実施しているものである。本稿では2007年度に発行した「星空かわら版」の内容を報告する。

1. 「星空かわら版」とは

「星空かわら版」は当館が来館者向けに無料配布しているパンフレットの名称で、その内容は時期に応じた天文学の話題や星空を平易に解説したものである。市民の天文学・宇宙に関する教育普及の一助となることを目的に発行している。

体裁はA4版1枚で、リソグラフによる両面の白黒印刷である。主として表面は発行時に注目の天文現象・星空の紹介で、裏面は発行月の星図を掲載している。これを科学館一階および地下一階にあるインフォメーションの棚に置いて、来館者が自由に持っていけるようにしている。発行部数は100部であるが、なくなった場合はそのつど追加で印刷して補充をしている。

内容はその時期によく見える惑星や星座の話、および月食、流星群などの特徴的な天文現象を取り上げている。主に大阪市内でも見える比較的明るい天文現象が中心である。

表1は昨年発行した「星空かわら版」のタイトル一覧である。次ページ以降にその内容を示す。

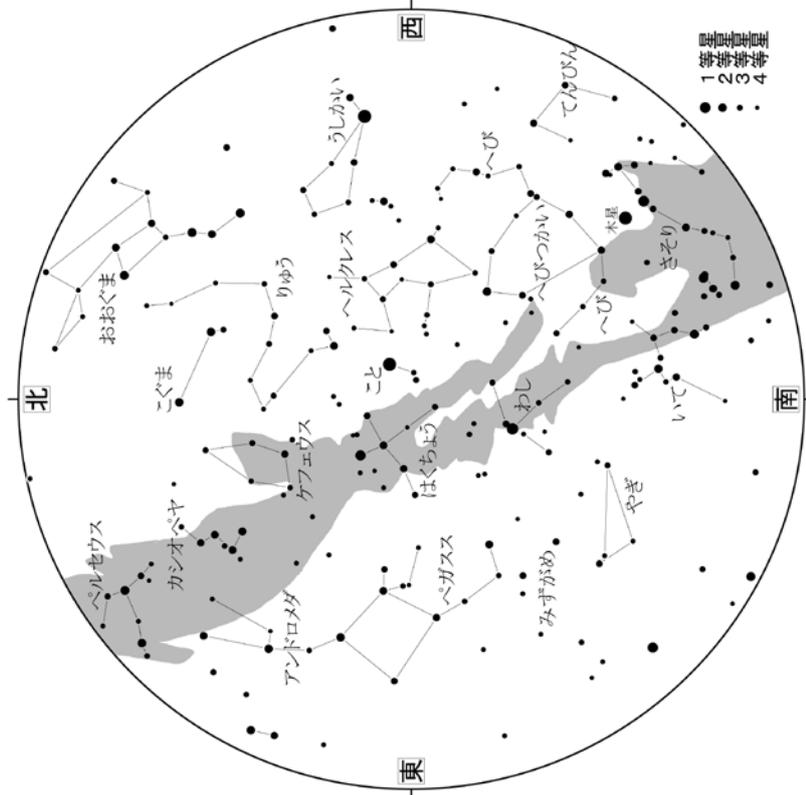
表1 タイトル一覧

発効日	タイトル
4/1	宵の明星・金星
6/1	惑星を見よう
7/5	夏の星を探そう
8/5	夏休みの天体ショー
8/23	皆既月食
9/1	中秋の名月・明けの明星
12/1	火星を見よう
2/1	冬の星空

*大阪市立科学館 学芸課 学芸員
E-mail: egoshi@sci-museum.jp

20時23分までの1時間半ほどの間続きます。その後地球の影から出て欠け具合が小さくなっていき、21時24分に月食が終わります。夏休み終盤で、月食の時間帯も手ごろのため、ぜひ観測したいものです。

8月の星空



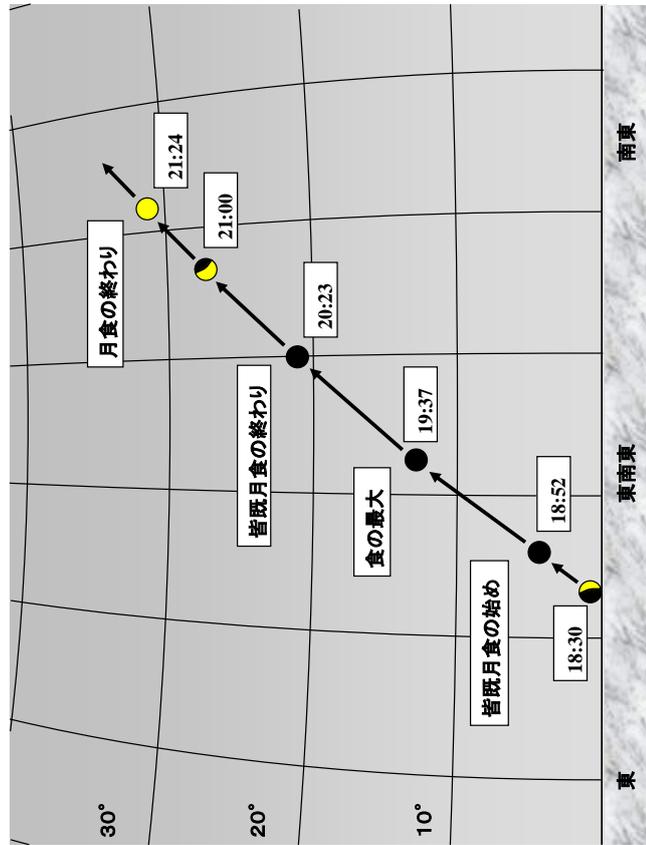
8月15日 22時ごろ
9月 1日 21時ごろ
の星空の様子です。

発行：大阪市立科学館 〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1
ホームページ <http://www.sci-museum.jp/> Tel:06-6444-5656

星空かわら版 2007年8月23日号

●皆既月食

今年の夏休みは大阪でも楽しめる大きな天文イベントがあります。夏休みも終わりの8月28日に皆既月食が起こります。これは月全体が地球の影に隠されてしまう現象です。時間とともにだんだんと月が欠けていき、ついにはすっぽりと地球の影に入ってしまう様子が見られます。前回、大阪で月が皆既月食となったのは2001年ですが、実に6年ぶりということになります。今回、月食が始まるのは17時51分ですが、このときには月が昇っていないので、まだ見るこゝとができません。この日の大阪の月の出は18時28分で、月が欠けたまま昇ってきます。その後月にはさらに欠けていき、18時52分に完全に地球の影に入ってしまう。この状態は



大阪での皆既月食の見え方（8月28日）

12月の星空

2007年12月1日号

星空から版

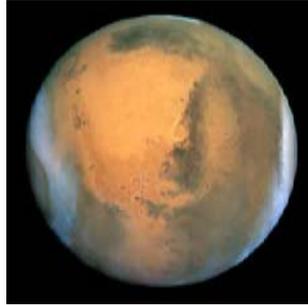
●火星を見よう

最近、夜9時ごろ東の空を見ると、とても明るくて赤い見慣れない星が見えています。これは、火星という星です。火星は太陽系の中の惑星の一つで、地球のすぐ外側を回っています。今月の19日に地球に最も近づくことから、今とても明るく見えているのです。

地球と火星は太陽を回る速さの違いから、2年2ヶ月ごとに地球に接近します。接近時の火星と地球の距離は毎回変わり、今回の接近は中程度の近づき方です。他の惑星は少なくとも1年に1回は見ごろの時期があるのに対し、火星の観測シーズンは2年に1回しかありません。ぜひこの機会に火星を探してみよう。

火星は簡単に昇つてくることができます。接近時の明るさは-1.6等級で、全天で最も明るい星になります。また赤い色をしています。また、たいへん目立ちます。大阪の市内でもすぐに見つけることができるでしょう。また近くには冬の代表的な星座であるオリオン座や、アルデハランやベテルギウスという、やはり赤くて明るい星が見えていますので、合わせて探してみよう。

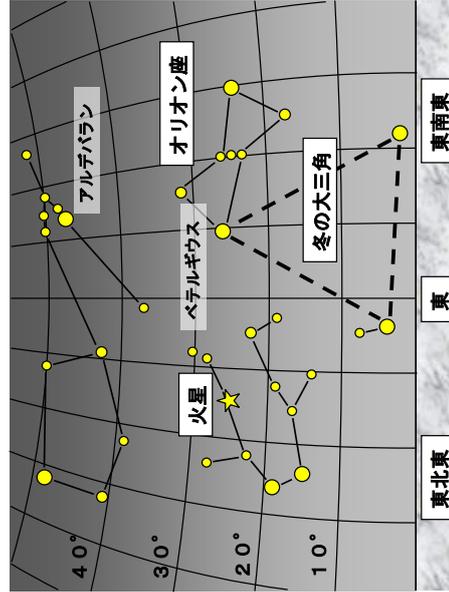
科学館では来年1月26日に、望遠鏡で火星を観測する観望会を行います。詳しくはパンフレット・ホームページをご覧ください。



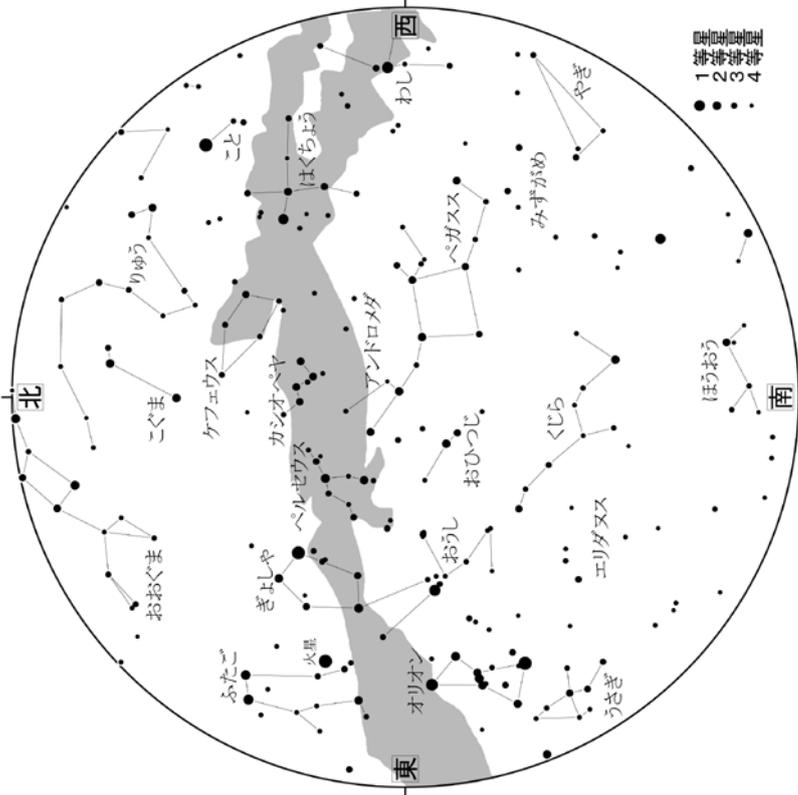
火星

©NASA and The Hubble Heritage Team (STScI/AURA)

火星は簡単に昇つてくることができます。接近時の明るさは-1.6等級で、全天で最も明るい星になります。また赤い色をしています。また、たいへん目立ちます。大阪の市内でもすぐに見つけることができるでしょう。また近くには冬の代表的な星座であるオリオン座や、アルデハランやベテルギウスという、やはり赤くて明るい星が見えていますので、合わせて探してみよう。



大阪での火星の見え方(12月1日午後9時ごろ)



12月 1日21時ごろ
12月15日20時ごろ
の星空の様子です(惑星は12月15日ごろの位置です)。

発行：大阪市立科学館 〒530-0005 大阪市北区中之島 4-2-1
ホームページ <http://www.sci-museum.jp/> Tel:06-6444-5656

